

## みなとみらい産官学ラウンドテーブル第28回公開セミナー

平成28年1月23日(土)及び平成28年1月30日(土)に、『みなとみらい産官学ラウンドテーブル第28回公開セミナー』が横浜国立大学成長戦略研究センター主催により、横浜ランドマークタワーにおいて開催されました。

今回は製造業を対象とした「ビジネスと標準化 ～標準化をビジネスツールに！～」というタイトルで経済産業省産業技術環境局基準認証政策課・課長補佐・中山文博氏にご講演いただきました。1月23日は「基礎編」として知財・標準・ノウハウの関係や企業戦略の実際と重要性についてお話いただき、1月30日には基礎編を踏まえ、「応用編」として複数ケースを題材にグループワークを行いました。

「基礎編」ではまず、デファクト標準・フォーラム標準・デジュール標準に標準は分類されることが示されました。デファクト標準は、個別企業等の製品・サービスが、消費者の取捨選択・淘汰を勝ち抜き、実質的に国際市場で採用されたものです。フォーラム標準は、関心のある企業などによるフォーラムにより作成されるもので、特に、先端技術分野の標準を作成する場合に多く利用されます。デジュール標準は公的な機関で正式な手続きによって作成される標準で、国際標準はISO（国際標準化機構）、IEC（国際電気標準会議）、ITU（国際電気通信連合）で定められます。次に、標準の歴史について、Stage1からStage4の4段階に区分して説明がなされました。基準・認証が国民生活を下支えしたStage1、基準・認証の戦略的重要性の高まったStage2、経営戦略としての標準化戦略を考えるStage3、社会システムの標準化という新たな動きであるStage4について、豊富な事例をもとに解説がありました。最後に、標準化の新しい潮流として「官民標準化戦略」を取り上げました。特に、我が国における標準化活動の課題として、業界をまたぐ融合技術や中小企業を含む企業の先端技術に関する標準化の加速化が指摘されました。また、標準化戦略を企業戦略と捉える認識が、企業経営者に十分に理解されていない点についても、課題として挙げられました。政策としては、新市場創造型標準化制度や標準化活用支援パートナーシップ制度の内容についてご説明があり、積極的な活用のご提案がありました。

「応用編」では、基礎編の復習後にケーススタディを議論しました。1つ目は「竹チップを用いた塗装技術」を事例に、2つ目は「ゲルインキボールペン」を題材に、出席者を3名から5名の6つのグループに分けて戦略を考えてもらい、それぞれの戦略案について発表し議論しました。グループによって、技術や知識の特許・標準・ノウハウに関するオープン&クローズ戦略の内容が異なり、その妥当性をめぐって、参加者と中山氏の間だけではなく参加者間においても活発な議論が行われました。ご講演の最後には、2回を通じた質疑応答の時間が設けられ、中小企業への経産省からの支援の必要性等、多くのフィードバックがありました。

今回のラウンドテーブルは、講義編とグループワークの2回に分けて行われるという初の試みではありましたが、理解が深まるのはもちろん、特にグループワークでは出席者の参加者意識が高まるという点でも大きな意義があると考えられます。ただし、2日に分けて行われたために、参加者は約30名と多くはありませんでした。今回のようなワークショップに近い形式を行っていく場合に、どのように参加者を増やしていくべきかといった広報活動については、今後の課題として残されています。

(文責：真鍋誠司)

